

茨城県

育成会だより

第 133 号

発行日 平成 29 年 12 月 10 日
発行所 茨城県手をつなぐ育成会
編集局 広報委員会
事務局 〒310-0851

〒310-0851
水戸市千波町 1918
茨城県総合福祉会館内
☎ 029-243-3838
FAX 029-243-3854

URL: <http://business4.plala.or.jp/iibaiku1/>
e-mail: iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



グループホームの新年会



ディズニーランド旅行



ユニットでのくつろぎの時間



体力ごとに外出企画 筑波山登山

社会福祉法人尚恵学園の取り組み

コスモス 管理者 角田^{のぶ} 純一郎

土浦市神立にある神宮寺の境内に、仏教社会事業の一環として、昭和31年尚恵養護学園を開設し、昭和45年に社会福祉法人格を取得、その後成人寮、児童寮から転換した厚生園、通勤寮（現在はグループホーム）、通所事業所、相談支援事業所と、時代に合わせて事業を展開し、半世紀を優に超える歴史があります。

2つの入所施設（尚恵厚生園・尚恵成人寮）・グループホーム（9棟）においては、入居されている方の高齢化が進み、医療との連携はもちろん、支援と介護のはざままでスタッフが知恵を出し合って日中の活動・食事・入浴等の生活支援をそれぞれのご希望に合わせて検討・対応をしています。入所者の高齢化に併せ、ご家族も高齢となり、施設行事等へのご家族の参加人数も年々減少しています。通所支援のコスモスは、入所とは対照的に、6割が10代から20代の方であり、学校卒業後の行き場がない方、他の事業所へ通所していたけれど断られてしまった行動障害が激しい方、障害が重い方などが、多く在籍しています。少しでも長く、愛するご家族と住み慣れた場所で暮らして頂きたいと願い、できる限りの工夫・対応を心掛けています。

当法人の入所施設・グループホームだけでなく、地域における親の高齢化に伴う「親亡き後」の課題からも目をそむけず、法人の理念である『共生』自分の力で生きて、働いて、友と寄り添い助け合い、共に良かったと感じたいを胸に、今後も地域の声に耳を傾け、地道に着実に歩んで行ければと考えております。

第55回手をつなぐ育成会茨城大会を開催

“一般社団法人化”後に新しい息吹



あいさつする矢野会長

《新たな育成会の道》

「第55回手をつなぐ育成会茨城大会」が、去る10月26日（木）、県民文化センター（水戸市千波町）で10時から2時間余りにわたり行われました。とくに今年は、わが育成会が9月1日に一般社団法人となった後の最初の大会であるだけに、会の存在に新しい息吹をもたらす、格別に意義深い、記録にとどめられる大会になったことでしょう。

恒例行事とはいえ、準備する側は大変で、9時前から、会場の設営、司会者のマイクテスト、コーラス指揮者のリハーサル等、TV放送の舞台裏を見るような慌ただしさでした。10時、総合司会嶋田副会長のもと、大高副会長の開会あいさつに続き、「手をつなぐ母の歌」の全員斉唱のち、大会式典に入りました。

冒頭、矢野会長は「茨城県育成会は昭和36年に誕生して以来55年を経過し、本年9月にようやく“一般社団法人”の資格を取り、新たな育成会の道を歩むことになった。一方、障害者関連の法律が、近年次々と改正・成立して、法整備が進んできた。この時に、新育成会に対し会員各位の一層のご尽力・ご協力をお願いしたい」と、あいさつしました。

続いて、県知事表彰として、中村正子副会長（ひたちなか市）が、大井川知事から感謝状と記念品が贈られました。そして、県および単位育成会貢献者として、吉川佳代子（潮来市）・長山利子（日立市）・大貫由美子（水戸市）・石田昌子（結城市）の4名の方々が、また、本人功労者として大内祐二（日立市）・大内周三（日立市）・菊池茂樹（日立市）・小林忠勝（日立市）・加世田圭輔（北茨城市）・小林俊也（石岡市）の6名の方々が、県育成会会長表彰を受けました。

《県知事と水戸市長から祝辞》

来賓祝辞は、県知事と水戸市長からいただきました。大井川和彦新知事はこう語られました。「このたび知事に就任し、1か月が経過しました。就任にあたりお約束した4つの目標－安心・安全の茨城、夢と希望の持てる茨城等々を達成するべく、状況をよく判断して諸問題に対処してまいりたい。これまでの県育成会の多方面にわたる活動に感謝している。私の外部への最初の視察は『あすなろの郷』だった。2年後には茨城国体があり、3年後にはパラリンピックが開催される。これらの舞台での障害者の活躍に大いに期待したい。」水戸市高橋靖市長が「県育成会の福祉行政への多大なる貢献に対して、敬意を表したい。行政と民間障害者団体との親睦・交流に一層力を入れていきたい。ノーマライゼーションの地域社会を作るべく、障害者の自己決定・就労支援・地域居住や自立・共生のための法律は充実しつつある。これをどう運用・実施していくかが大切であって、行政側として、これを支援していく。また、民間・行政が手を取り合って進んでまいりたい。」と、力強く述べられました。

最後に、受賞者を代表して、大内祐二さんが「周囲の方々の応援・励ましがあって、これまで働いて来られた。これからも元気でがんばります。」と、大きな声で謝辞を述べました。本人功労者のあいさつは、いつもほほえましく、同時に胸を打つものがあります。

このあと、大会宣言案を飯村副会長が読み上げ、全員の賛同でこれが採択されて大会を終了し、次の講演会に移りました。



表彰者代表のあいさつ

親なきあとと障害者はどうなる？

いざとなったら何とかなる！！

講演会：「親なきあと」相談室主宰 渡部 伸氏

《渡部伸氏とは？》

渡部伸（しん）氏は、今や茨城県ではちょっとした有名人ではないだろうか。少なくとも、県育成会においてはそうだろう（と思う）。今年3月、育成会研修委員会が講師を渡部伸氏として、「障害者はどうなる？」の演題で講演会を開催した。その時研修委員会は参加者を7～80名程度と考え部屋を手配したが、締切り時には300名近くの人に参加するとわかり、あわてて会場を変更したとのことである。その折には、失礼ながら、「渡部伸」の名前に引かれ参加者が急増したわけではないだろう。多分、「親なきあとの障害者の問題」という、高齢化しつつある親の間で近年とみに関心の高い主題が、観客を集めたものと思われる。が、講演内容は非常にわかりやすく、聞いた人には大変好評だった。そのため、今回の茨城大会の講師にはぜひ再び渡部先生を、ということになったのだらうと考えられる。



渡部伸氏は1961年生まれ、2014年に行政書士事務所を開業、同時に「親なきあと」相談室を開設した。東京都世田谷区手をつなぐ親の会の副会長をつとめ、自身、次女が重度の知的障害者の親であられる。

《軽妙、ユーモアのある話しぶり》

渡部先生の語り口は、まさに軽妙というのがピッタリの、時折笑いを誘うユーモアあふれるもので、冒頭からしっかりと参加者をひきつけた。当日配布された資料は50項目に分かれているが、これをすべてについて触れる時間はないので、渡部先生は適宜選択して説明・解説されたわけだが、ここでは、その内とくに注目すべきと思われる諸点を列記するに留める。

《講演の主要点》

- ◎「親なきあと」の課題とは
- ◎「親なきあと」の生活を支える仕組み
- ◎福祉型信託制度とは
- ◎成年後見制度の利用はまだちょっと…という人に〈重要〉
- ◎生活の場はどこになる／障害者の住まいの新しい動き／見守りに関する新しい動き
- ◎親がなくなったとき子どものことを知ってもらおう（ライフスタイルカルテ＝ラスカル）
- ◎「親なきあと」についてお伝えしたかったことのまとめ：
 - 社会の接点を持つ＝子どものことを話せる相手を見つけておく
 - 状況は良くなっている、と気楽に構える
 - 最低限の準備はしておく
 - いざとなったら何とかなる！

最後に、渡部伸氏の著書を2冊紹介しておきます。いずれも、わかりやすい説明で、理解しやすい内容になっています。決して、著者本の宣伝をしているわけではありません！！

- ・障害のある子の家族が知っておきたい「親なきあと」（主婦の友社 1,300円プラス税）
- ・障害のある子が「親なきあと」にお金で困らない本（同上）

第4回全国手をつなぐ育成会連合会札幌大会

《親子で住めるグループホーム?》

NPO 法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会 青木 礼子



ホテルロイトン札幌での全大会

平成 29 年 9 月 23 日 (土) ~ 24 日 (日)、ホテルロイトン札幌において全国大会が開催されました。23 日は、分科会・基調講演・シンポジウムが行われました。

第 5 分科会「高齢」は、参加者が 300 名を超えて一番大きな会場でした。副島宏克氏による基調講演は、「^{そよじま}因島型福祉」(親子で住めるグループホーム)の話でした。総合支援センター「はばたき」が、同じ建物内に高齢者グループホーム・障害者ケアホーム

・高齢者デイサービスを備え、上の階には、2LDK・3LDK の親子で利用できるグループホームがあります。高齢の親は、介護保険による「ホームヘルプサービス事業」を利用し、障害のある方は、「障害児・者ホームヘルプサービス事業」の利用ができます。どうしても別々の建物として考えてしまう私には、すばらしい発想でした。親も高齢、障害者の子も高齢になり、地域で暮らすために工夫することは、たくさんあると思いました。

また、午後からのシンポジウムは、重度・高齢グループホームの話聞き、医療的ケアの難しさ、在宅医療支援、訪問診療・看護を経て「看取り」の話にまで及びました。

「死なないと思っている、死ねないと思っている親」「誰にでも死は訪れる」と言う川島弁護士のお話。さらに、親なきあとの話に進み、成年後見制度や、横浜市の「障害者後見的支援制度」の説明が続きました。

二日目は、大会式典、浅野史郎氏による『地域・人権・ふつうの生活』と題する記念講演がありました。厚生省時代、宮城県知事 12 年間の経験を経て、現在の活動を語り、すばらしい講演でした。

茨城空港から 1 時間 25 分。あっという間の空の旅。本当に有意義な時間を過ごせました。

《第 6 分科会は「権利擁護」》

石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会 嶋田 みち子

私は、第 6 分科会「権利擁護」に参加しました。本分科会では権利擁護に関する様々な課題について討論されましたが、その中で最も印象深かったのは「命の重さと権利擁護と育成会活動」です。昨年日本中に衝撃を与えた、相模原市の重度障害者施設での殺傷事件を例に議論されました。基調講演を行った毎日新聞論説委員の野沢和弘氏は、「この前代未聞の殺傷事件を起こしたのが、障害者に全く関わりのない人ではなく、本来障害者を守る立場の施設職員であったことこそが重大な問題である」と語りました。これまで障害者差別解消法等の法制度が整備されてきましたが、法整備だけでは障害を持つ人々を守りきれないという現実を突きつけられました。

では、私たち親は子供を守るために何をすべきか。一つは、本人にとっての適切な支援方法・制度の利用を親が主体的に考えていくことが挙げられます。親が元気であるうちに親亡き後を想像し、熟考しておくことは言うまでもありません。

また、相模原事件の時、全国手をつなぐ育成会連合会がいち早く声明文を出したように、育成会が障害を持つ人々の気持ちを代弁して世の中に発信し、理解を求めていくことが重要です。それによって、法制度やサービスの質の更なる改善につながるからです。

今回の分科会では、法制度が誰のために存在するのかということがキーワードとなっていました。全ての法制度は、障害を持つ人々が人としての誇りを持ち、安心・安全に暮らすためのものです。障害者本人にとっての幸せを最優先に考え、親・施設職員および行政等、関係機関が支援チームとして力をあわせていくことの重要性を痛感しました。

第51回関ブロ大会開かれる

—キャラバン隊の成り立ちと役割

牛久市手をつなぐ育成会 永山 静子

7月22日(土)「松戸森のホール&21世紀の森と広場」を会場に、千葉大会が開催され、当会より7名参加しました。

第2分科会「ありのままを伝えたい」～障害理解を深めて共生社会へ～では、堀江まゆみさん(白梅学園大学教授)が、「キャラバン隊の成り立ちと役割」と題して講演をされました。

今までは、親亡き後は、そこに入所させるという目的で施設造りに努力が払われてきました。今は障害のある人も安心して地域で暮らしたいと思っています。そのため、合理的配慮の理解に向けて、障害のある人の親たちがキャラバン隊を作り、市民・ご近所・支援者・子どもたち・教員などにビデオや寸劇で障害への理解を求めて啓発活動をしています。活動するにあたり、一般の方は、良く知らない、どう対処して良いのか分からない、気持ち悪い、関わりたくないなどの意見がありました。

そこで、地域の中で障害理解のキーパーソンを掘り起こして育てる運動を始めました。コンビニの店員さん、駅員さん、バスやタクシーの運転手さん、警察官、地域のお医者さんなどに講演会を開き、パンフレットを配布し、障害者を正しく理解してもらう運動です。合理的配慮として、身振り・写真・絵・言い方を変えたりして、障害者の思いを伝えました。そのキャラバン隊の活動により徐々に障害者に対する関心が高まり、活動が評価され、素朴な親の思いが段々に認められて、キャラバン隊に内閣府から表彰状が贈られたそうです。

シンポジウムは、「知ってほしい・伝えたい…活動の効果と課題」のテーマで行われました。堀江まゆみさんの進行で進められ、座間・八千代・松戸・市川手をつなぐ親の会のキャラバン隊の方々が、「障害のある子を知って欲しい」という啓発活動について、それぞれ熱く語られ、本当にその熱い思いが切々と伝わってきました。

アクアワールド大洗水族館の見学を楽しむ

—第1回本人交流会に85名が参加

9月16日、大洗水族館で本年第1回本人交流会が行われました。通常、本人交流会といえは、本人部実行委員を育成することもその目的の一つにしているため、“お楽しみゲーム”などとともに、“研修会”的な要素も強いのですが、今回は実質的に楽しいレクリエーション日となりました。

大洗水族館は、年々、施設や展示に変化が加えられ、何回見学に訪れても、その魅力が減少することはありません。本日参加した本人とその家族は、水族館の話題性に富んだ新しさに期待したのかもしれない。そのためか、参加者は、85名に達しました。

現地集合は10時でしたが、到着したグループごとに次々に入館。午前中、イルカ・アシカショーでの、いつもの軽妙な演技を楽しんだあと、思い思いに館内を自由に見てまわりました。昼食時、全員が地下の多目的室に集まり、本人部会委員長伊藤広也さんのあいさつに耳を傾けました。

午後、再び自由見学の時間となり、午前中見落とししたところを重点的に見たり、お気に入りの箇所を再度見るなどしながら、3時ころ適宜自由解散となりました。そのあと、さらに近くの明太子工場に立ち寄り、工場見学とお買い物を楽しんで帰路についた方もいたようです。

なお、第2回本人交流会が、11月26日、県総合福祉会館に37名の方々を集めて、午前中に「C.T.Bゲーム」、午後に「何でもトーク」を中心に行われました。



さあ これから見学だ!



目新しい展示が次々と…

「障害のある子を残して、貴方は安心して死ねますか？」 —第2回研修会に参加して

利根町議会議員 新井 滄吉



認知症 500 万人時代を迎え、誰もがこの問題を抱える状況になって来ました。

私は 20 代の頃、今話題になっている豊洲市場近くの辰巳団地で生活したことがあります。ここで沢山のご夫婦から本音の人生のお話・教訓を伺うことが出来ました。この団地に M さんという素晴らしい方がおり、この方がどうしてこんな素晴らしい人間になったのだろうとずっと疑問に思っていました。ある時気づきました。M さんは障がいのあるお子さんをお持ちで、その子育ての中から、その素晴らしい人格・人への思いやりを形成してきたのだと。

第 2 回権利擁護委員会主催研修会は、副題「親なきあとを考える」として、講師の檜山信雄氏が講演されました。檜山氏の履歴を拝見すると、その生涯は障がいのある多くの子どもたちに捧げられています。それで M さんと同じと気づきました。私も職業柄、成年後見制度につき勉強しましたが、障がい者の人権を守り続けるには「法人後見」かなと理解いたしました。

手をつなぐ育成会の研修会は、同じテーマで確かな視点・経験を持った講師のお話を聞けるので、とても勉強になります。次回の研修会の講師は杉浦ひとみ弁護士です。この研修会の講師は、実に凄いい講師ばかりです。この会の運営者の選択眼が凄いですね。感謝感謝です。

総予算 160 万円の大事業！ — 感動、共感そして奇跡！

古河市心身障害児(者)父母の会 会長 大高 滋

人は、出会いふれあい語り合うことにより、感動し共感する機会を等しく与えられている、たとえ障害があろうとも。本人の力ではいかんともしがたいのであれば、可能な限りその機会を作ることが、保護者や支援者の使命ではないか。

この 9 月 2 日～3 日、福島県いわき市にあるスパリゾートハワイアンズ (SRH) に、当会は会員とその子どもたち合わせて 36 名、更には物心両面で大変深い理解を頂いた古河東ロータリークラブ (RC) の会員 10 名が集い、爽やかな汗を流し喜びに満ちた笑顔を見ることができた。

当会と RC の会員同士は全くの初対面ということもあり、初日のいわきワンダーファームでの昼食では知り合い同士でテーブルを囲んだが、SRH に到着しお風呂やプールに入り言葉を交わすうち、夕食会場と和やかに会話が弾み、カラオケでは全員が手拍子を打ち一体感が生まれた。

極め付きはフラガールのショーだ。まさにフラの宝塚であり、音楽・衣装・ダンスを最前列で鑑賞し十分堪能できた。翌日は、いわき・ら・ら・ミュウ研修室で RC の企画による被災地柗葉町 10 名の方が合流し、食材全てが柗葉産の手づくりすいとんを頬張りながら、震災時から現在までの状況を聴き胸が一杯になり、また、全員による身振り手振り入りの歌で場内が盛り上がった。

帰路につくバスの中では、和気あいあいとした空気で包まれた。

思い起こせば企画から約 1 年、総予算も約 160 万円と当会としては壮大なスケールであり、当初はまず不可能とも思える事業だった。しかしそれが実現したのは、「よし！それでは物心両面で協力してやろう」という、地域に根ざしている RC という奉仕団体の理解があったからこそである。まさに奇跡が起きたのである。総予算の半額以上の拠出を頂き、貴重な時間を割いて会員も多数動員して頂いた。当会会員と RC の深い相互理解ができ、感動し共感を覚えた 2 日間であった。これを機に今後もお互いの絆を強めた事業が展開できることを念願期待します。



特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立土浦特別支援学校（土浦市）

本校は、霞ヶ浦の東端から約5キロ、大関高安関の出身地でもある土浦市の西部に位置し、来年度創立40周年を迎える知的障害特別支援学校です。通学区域を、茨城県県南地域の土浦市、石岡市、かすみがうら市、小美玉市の旧玉里村地区とし、今年度、小学部92名、中学部69名、高等部79名、合計240名の児童生徒が在籍しています。

「元気なあいさつ 笑顔いっぱい 今日が楽しく 明日がまちどおしい学校」をスローガンとして、明るく、たくましく、自分らしく、笑顔いっぱい学校生活を送ることができるよう、教職員全員が子どもたち一人一人に応じた支援をしながら、日々教育活動に取り組んでいます。

開校当初より地域の方々からの様々なご支援・ご協力をいただき、ボランティア団体等との交流会を実施するとともに、学習活動支援（読み聞かせ・職場体験・集団実習・現場実習等）等により、児童生徒は様々な経験の中、地域とのつながりを深めています。また、学校間交流や居住地校交流も多くの学校と行い、児童生徒同士のつながりも年々広がってきているところです。

P T A活動も盛んに行われ、各委員会主催の活動の他、各地域における地区P T A活動も11年目を迎えて、行政の協力を得ながら、地区合同遠足や施設見学、お楽しみ会等活発に行われています。

今回は、10月28日（土）に実施した本校の文化祭「第26回土陽祭（どようさい）」での児童生徒の様子を写真でご紹介します。当日は1000人近い来校者があり、盛大な開催となりました。

高等部3年生ステージ発表

「テーシチなタッチ（大切な時間）～今おもふこと～」
力強いエイサーは大迫力でした！！



中学部2年生ステージ発表

「世界の果てでふしぎ発見！」世界各国を巡る旅。ラストは日本の「よさこいソーラン」で締めくくりました。



小学部3・4年生ステージ発表

「アンダーザシー～王様をすくえ！」海の仲間たちが繰り広げるファンタジー。感動のフィナーレです。



コーナー活動

ゲームコーナー「コロコロバイキング」力を合わせてボールをころころ。楽しいゲームで盛り上がりました。



1月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定
1月	24日(水)	(一社)茨城県手をつなぐ育成会臨時総会(中研修室)
2月	16日(金)	知的障害者相談員研修会(大研修室)
3月	1日(木)	平成29年度第4回研修会(大研修室)
	10日(土)	「育成会だより」134号発行
	20日(火)	平成29年度第5回理事会(小研修室A)

“有森裕子”とスペシャルオリンピックスとの関係は？

SOはパラリンピック？

「有森裕子」とオリンピックとの関係は？これを知らない人は、日本中だけ一人としていない。これは事実。しかし、彼女と「スペシャルオリンピックス(略称はSO)」との関係は？と問われ、答えられる人は、まだ少ないようだ。「スペシャルオリンピックスとは、例のパラリンピックのことか」と質問も出そうです。

実は、スペシャルオリンピックス(オリンピックではない！複数形の「ス」が語尾につく)は、知的障害のある方の社会参加をスポーツを通じて応援する、国際的なスポーツ組織です。全世界170の国と地域で活動が行われ、国際オリンピック委員会とSO国際本部は「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認めあう議定書を交わしており、世界大会や全国大会など、さまざまなオリンピック精神に基づく大会や競技会、そして日々のトレーニングを実施しています。

有森さんはSOの理事長

パラリンピックが主に身体障害者を対象としているのに対し、SOは知的障害者を対象としている組織です。そして、有森裕子さんは、そのSO日本の理事長を務めているのです。有森さんは、去る8月11日、SOの認知がまだ比較的低い茨城県に来られ、土浦市で「夢は叶う～スペシャルオリンピックスのキセキ！」との演題で講演会を行いました。その中で、すばらしいSOの活動の説明をしたうえで、知的障害者の方々とその家族を、圧倒的な力強いコトバで激励されました。

なお、県育成会の矢野会長がSO日本・茨城の理事として活動しており、また各地の育成会会員の中で同会に所属している方もおります。SO日本・茨城の連絡先は次のとおりです。関心のある方は、ぜひ、どうぞ…

スペシャルオリンピックス日本・茨城

事務局 〒300-0312 稲敷郡阿見町南平台3-21-12

TEL 090-5538-2516 FAX 029-887-6644

E-mail:son_ibaraki@son.or.jp HP:http://son-ibaraki.jimdo.com/

29年度福祉表彰者

第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会北海道札幌大会

9月23日(土)～24日(日)・ロイトン札幌

全国手をつなぐ育成会連合会会長表彰 木村 朋子(茨城県手をつなぐ育成会監事)

第67回茨城県社会福祉大会

(11月8日(水)・常総市地域交流センター)

茨城県知事表彰

社会福祉援護功労者(障害者相談員) 渡邊 千代子(日立市手をつなぐ親の会会長)

社会福祉自立更生者 本間 菊枝(日立市手をつなぐ親の会)

佐藤 英興(日立市手をつなぐ親の会)

清水 学(北茨城市手をつなぐ育成会)

伊藤 広也(北茨城市手をつなぐ育成会)

松原 幸子(牛久市手をつなぐ育成会)

茨城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉団体役員 福田 勝房(境町心身障害児者父母の会会長)

秋田 宣子(境町心身障害児者父母の会理事)

佐怒賀 久美子(境町心身障害児者父母の会理事)

編集後記

「育成会」と聞いたとき子供会育成会のことだと早合点し、あーそうだったのかと認識を改めて20年経過。矢野新会長の下、一般社団法人化の設立を遂げ「育成会」も新たな飛躍と時代に即応した体制づくりが整いつつあります。その根本にあるのは、単位育成会の会員増強や財政力強化です。そのためには、ポジティブに県の事業に参加し、情報の共有を図りましょう。(大高)